



笛南中だより

甲府市立笛南中学校
文責 校長 加藤新吾

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の中学校 3 年生を対象に 4 月 18 日（火）に国語と数学で実施されました。

この調査は、「教科に関する調査」と「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」の 2 種類からなっており、「教科に関する調査」は、「知識」に関する問題（A 問題）と「活用」に関する問題（B 問題）に分かれています。

そして、この調査結果を基に、本校生徒の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態等を明らかにすることで、今後の指導の改善に役立てることが目的です。

本校では、各教科担当を中心に分析を行ってきましたが、このたび分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

今後、3 年生には個人票を返却し、自分のつまづきを知り、その改善に取り組むように指導します。また、学校としても、全学年で授業や指導のあり方を見直して、具体的な取り組みを行っていきます。

学力調査の概要

平均正答率を比べてみると、数学 A は全国及び県と同等、国語 A と数学 B は全国と同等で県よりやや低いとの結果でした。また、国語 B については、全国及び県より低いとの結果でした。

集団としての正答率も大切ですが、学力学習状況調査では生徒一人一人の課題を把握し、これからの指導に生かしていくことが、最も重要であると考えます。

県・全国の平均正答率				
	国A	国B	数A	数B
県	79	74	64	49
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

各教科の成果と課題（○：成果 ▲：課題）

国語 A（主として知識に関する問題）

- 漢字の読み書きの正答率は、国・県を上回っている。
- 「書くこと」の正答率は、国・県とほぼ同等である。
- ▲「話すこと・聞くこと」の領域に課題が見られる。
- ▲話し言葉と書き言葉の役割の違いの理解が不十分である。
- ▲物語の登場人物の関係や内容の展開など、頭の中で整理しながら読むことが苦手である。

国語 B（主として活用に関する問題）

- 「書くこと」の正答率は、国・県とほぼ同等である。
- 記述式問題の正答率は国・県とほぼ同等である。
- ▲「話すこと・聞くこと」の領域に課題が見られる。
- ▲短答式・選択式の問題に課題が見られる。
- ▲文章や詩の表現技法についての知識に課題が見られる。
- ▲話す、聞くのそれぞれの立場によって必要な事柄を考えることが苦手である。

数学 A（主として知識に関する問題）

- 図形領域と割合の領域の正答率はほぼ全国と同等である。
- ▲全国の傾向と同じように関数領域や確率に課題が見られる。
- ▲関数の意味や式に表すこと、変化の割合について課題が見られる。
- ▲選択式の問題に課題が見られる。

数学 B（主として活用に関する問題）

- 数と式の領域の平均正答率は、国・県とも上回っている。
- ▲関数領域においては全国の平均正答率より低く大きな課題が見られる。
- ▲証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだしたり、筋道を考えたりして証明することができていない。
- ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができていない。
- ▲記述式問題の正答率が低い。

各教科における主な改善点

国語

- 小グループの中で意見交換する場面をこまめにもうける。
- 話し言葉と書き言葉の違い、使い分けについて授業の中で確認する場を設ける。
- 書写の基礎知識を教科書で確認する。
- 読むことの授業では、場面ごとに大まかな展開内容を確認しながらすすむ。
- 文章や詩の表現技法について確認する。
- 話し合い活動の中で、または発表する場面において、相手に必要な情報は何か考えながら材料を集める視点を与える。

数学

- 3 年の関数領域に入る前に、1、2 年の復習や比例・反比例・一次関数の特徴をまとめて対比して覚えらるよう授業を工夫する。
- 変化の割合の意味について確認をし、グラフや

表から読み取ることができるようにする。

- 確率については、2年の最後に学習したため、定着を図るための演習時間が少なかったので、演習時間を多くとり、定着をはかる。
- ある条件の下で成り立つ性質や関係に着目し、図形を考察することができるような問題を多く解かせる。
- 結論を導くためには何が分かればよいのかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したりして、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考える活動を多く取り入れ、証明がかけるように指導する。
- 日常的な事象を理想化・単純化して、その特徴を的確に捉えることができるような問題を多く取り入れ、数学を使って考察することの良さを実感できるように指導する。
- 授業の中で、論理立てて説明ができるように、また、記述できるように指導する。

学習状況調査（質問紙調査）の概要

今回の「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」では、「生活習慣に関する質問」と「学習環境に関する質問」に分けて分析を行いました。

分析の結果、肯定的な回答が国や県と同等か上回っている項目がある反面、肯定的な回答が下回っている項目も見られます。これらを課題として捉え、改善していかなければならないと考えています。また、各ご家庭でもご協力をお願いします。

肯定的な回答の割合が国や県を上回っているもの

- 生活習慣
 - ・今住んでいる地域の行事に参加している。
- 学習環境
 - ・学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている。
 - ・数学の授業の内容はよく分かる。
 - ・400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思っていない。
 - ・国語の勉強は好き。

肯定的な回答の割合が国や県を下回っているもの

- 生活習慣
 - ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する
 - ・友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる
 - ・将来の夢や目標を持っている
 - ・家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする
 - ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている
 - ・家で、学校の宿題をしている
 - ・家で、学校の授業の復習をしている
- 学習環境
 - ・授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている
 - ・1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていた

- ・1、2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった
- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

肯定的な回答が国や県とほぼ同等で、割合が高いもの

- 生活習慣
 - ・朝食を毎日食べている
 - ・毎日、同じくらいの時刻に起きている
 - ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
 - ・友達との約束を守っている
 - ・いじめは、どんな理由があってもいけない
 - ・人の役に立つ人間になりたい
- 学習環境
 - ・学校に行くのは楽しい
 - ・学校で、友達に会うのは楽しい
 - ・先生はあなたのよいところを認めてくれている
 - ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる
 - ・国語の勉強は大切だ
 - ・今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題を最後まで解答を書こうと努力した
 - ・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている
 - ・今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題を最後まで解答を書こうと努力した
 - ・国語Aの調査問題の解答時間は十分だった

肯定的な回答が国や県と同等だが、割合が低いもの

- 生活習慣
 - ・家で、学校の授業の予習をしている
 - ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える
 - ・新聞を読んでいる

学校生活・学習環境における主な取り組み

- 生活面
 - ・学活や学級指導では、自己の生活を見直すと共に、自分の長所を生かした将来の自分についてさらに考えさせます。
 - ・道徳科の授業を工夫し、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養います
- 学習面
 - ・「自主学习ノート」を中心に取り組み、家庭学習（予習、復習）の定着を図ります。
 - ・放課後学習会や授業の工夫（小テスト、学習プリント）を実施し、基礎学力の定着を図ります。
 - ・小集団活動や意見交換、発表等の学習場面を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。